

越境 × 対話 × 共創

市民の参加と協働を進める

コーディネーション研究集会 in 京都 JVCC2025

多様な主体が生み出す“協奏”の力 ～京から紡ぐ未来のコーディネーション

2025
2月22日(土) → 2月23日(日)



会場

龍谷大学 深草キャンパス
京都府京都市伏見区深草塚本町67

参加費 一般：会場 8,800円 オンライン 9,900円
JVCA正・準会員：会場 7,700円 オンライン 8,800円
学生：会場 4,400円 ※条件あり
オープニングセッションのみ参加：2,200円

JVCC2025専用Webページ



申込締切

1/31
2025

主催 認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会 / 市民の参加と協働を進めるコーディネーション研究集会2025実行委員会
共催 龍谷大学ボランティア・NPO活動センター
特別協賛 サントリーホールディングス株式会社

開催趣旨

6年ぶりに、京都でJVCCを開催します！

市民参加と協働に関わる、より多方面の方々との出会いと学び合いを願って、名称を「全国ボランティアコーディネーター研究集会(JVCC)」から、「市民の参加と協働を進めるコーディネーション研究集会(JVCC)」に改めて5回目。1994年の初回から数えると31回目を迎えます。

2025年。それは阪神・淡路大震災から数えて30年目にあたります。当時、マスメディア等で「ボランティア元年」とも呼ばれ、市民参加やNPOの重要性が広く認識されるきっかけとなりました。併せて、立場の異なる人と人、また組織やセクターを繋ぎ、新たな力の創出を支える「コーディネーター」の存在も注目されるようになりました。

それから30年。私たちの暮らす社会で、市民参加や市民自治はどれだけ根付き、広がりを果たしたでしょうか？人口減少、少子高齢化が進む中、身近な地域コミュニティにおいて、分野やセクターを超えた多様な人や組織の「協働」は不可欠となっています。また、地球規模での環境問題や貧困問題へのアプローチにも市民一人一人の意識改革や参加、そしてセクターを超えた「対話」が求められています。さまざまなところで「コーディネーション力」が求められ、試されていると言えるでしょう。

今回の大会テーマは、「多様な主体が生み出す“協奏”の力 ～京から紡ぐ未来のコーディネーション」です。“協奏”とは、すなわち、各々が自ら音を出す(=奏でる)ことで成果を生み出すということです。さまざまな場で多様な主体による“協奏”が展開され成果を上げている、そんな未来を作るコーディネーションについて、「京都で」「今日から」語り合い、実践していきましょう。皆様の参加を心からお待ちしております。

市民の参加と協働を進めるコーディネーション研究集会 実行委員長
筒井 のり子(龍谷大学)

開催概要

2025年2月22日(土) 10:30~17:00

2月23日(日) 9:30~15:30

ー 参加者交流会は22日(土) 17:45~19:45にて開催します。詳細はP8をご覧ください。

参加費 一般：会場 8,800円 オンライン 9,900円
JVCA正・準会員：会場 7,700円 オンライン 8,800円
学生(※)：会場 4,400円
オープニングセッションのみ参加：2,200円
参加者交流会費(任意)：3,300円

※ 参加費：学生は、会場参加のみが対象です。参加後に400字以上のレポートを提出いただきます。
なお、対象は大学・短大(学部生)および専門学校の学生を想定しています。


会場 龍谷大学深草キャンパス & オンライン

参加対象



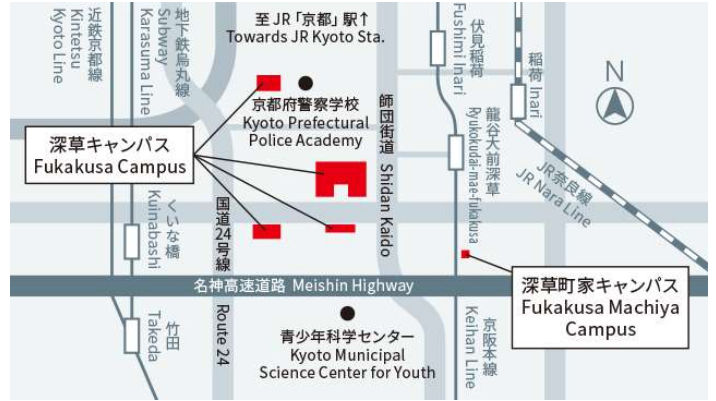
- ・ 地域や組織で人や団体のコーディネーションに携わる方
- ・ 市民の参加や協働の場をつくるコーディネーション実践に関わる方
- ・ 異なる分野とつながり、社会課題の解決をめざしたい方

参加案内

 **会場：龍谷大学 深草キャンパス**
京都府京都市伏見区深草塚本町67

access

- JR奈良線「稲荷」駅下車、南西へ徒歩8分
- 京阪本線「龍谷大前深草」駅下車、西へ徒歩3分
- 京都市営地下鉄烏丸線「くいな橋」駅下車、東へ徒歩7分



オンラインについて



- **Zoom**を使用いたします。最新のバージョンにアップデートをお願いいたします。
- パソコンでの視聴を推奨いたします。タブレット、スマートフォン等での参加も可能ですが、ブレイクアウトセッションの参加や資料の閲覧において不具合があることがありますので予めご了承ください。
- マイク、カメラ、スピーカーが使用できるデバイスをご活用ください。
- **一人1デバイスでご参加ください。**

申込方法

JVCC2025専用Webページのフォームからお申込ください。

<https://jvcc2025.jimdofree.com/>

郵送またはFAXでのお申込をご希望の方は、下記事務局までご相談ください。

- 分科会A、分科会Bはそれぞれから1つを選ぶ選択制です。各分科会は先着順です。それぞれ第1希望 / 第2希望 / 参加しないをお選びください。

***申込締切…2025年1月31日(金) 先着順**

※締切日前に定員に達した場合は、その時点で締切とさせていただきますので、お早めに！

〈参加費のご送金〉

参加お申込受付け後、ご登録のメールアドレスにメールにて入金手続きのご案内をお送りしますので、参加費等をお振込みください。

一般：会場 8,800円 オンライン 9,900円 / JVCA正・準会員：会場 7,700円 オンライン 8,800円
学生：会場 4,400円 / オープニングセッションのみ参加：2,200円 / 参加者交流会費(任意)：3,300円

- 参加費等の入金をもって、正式なお申込といたします。
- ご入金後は原則として返金できませんのでご了承ください。
- 学生価格で参加される方は、会場参加のみとなります。参加後に400字以上のレポートを提出いただきますので承知いただいた上でお申込ください。なお、対象は大学・短大(学部生)および専門学校の学生を想定しています。
- 本集会の会場でJVCAに入会(正・準会員)されると、参加費の差額を会場でキャッシュバックいたします！

○参加申込に関する個人情報の取り扱いについて○

- 参加申込でいただいた個人情報は、本集会の開催に必要な連絡調整(事前アンケートを含む)、今後の本集会と日本ボランティアコーディネーター協会の事業のご案内のために使用します。
- 本集会の運営のために、担当実行委員や登壇者には参加者の氏名、属性などの基本情報を共有いたします。また、参加者には名簿の配付により、全参加者の氏名、都道府県、所属団体を提供する予定です。

〈宿泊について〉 宿泊の手配は主催者および事務局では行いませんので、各自でお願いいたします。

〈当日のZoom ID 等のお知らせ〉 ご登録のメールアドレスにメールにてお知らせいたします。

〈問い合わせ〉 市民の参加と協働を進めるコーディネーション研究集会2025実行委員会事務局
E-mail:jvcc2025@jvca2001.org Tel:03-5225-1545 FAX:03-5225-1563
〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2丁目13番地 末よしビル別館30D

JVCC2025専用Webページ



プログラム案内

1

日目 2月22日(土) 受付: 10:00~

※ハイブリッドは、会場参加、オンライン参加を選択いただける分科会です。

10:30 ~12:30	オープニングセッション		阪神・淡路大震災から30年 ~市民が主体の社会づくりに向けた私たちの課題~
分科会A 14:00 17:00	A1	ハイブリッド	×(かける)の力が生まれる「場」をつくる 多様な主体が集まり繋がるプログラムとコーディネーションについて考える
	A2	ハイブリッド	ボランティアのお客様化?! ボランティアの主体性を引き出すコーディネーションを考える
	A3	ハイブリッド	協同組合と連携した地域づくりのコーディネーションを学ぼう 2025国際協同組合年をきっかけに、輪をひろげよう
	A4	ハイブリッド	外国人住民との「アレ」を「A.R.E」に変えるコーディネーション 社協と国流の連携で、外国人も支援者になる実践事例
	A5	ハイブリッド	待ったなし! ボランティアの現場にこそ必要な「合理的配慮」と「インクルーシブ」の視点 あらゆる人の参加を実現する「インクルーシブボランティア」のコーディネーション
	A6	会場のみ	ネットワーク運営に悩む人 大集合! ネットワークの価値や可能性を引き出すヒント、一緒に見つけましょう!
	A7	会場のみ	コーディネーターのお悩み「あるある探検隊」 しなやかなコーディネーターになるために!
	A8	会場のみ	若者×地域 ごちゃまぜトーク! 『若者! よそ者? 宝物!! ~本気で向き合う地域のホンネ・若者のホンネ~』
17:45 ~19:45	参加者交流会		会場のみ開催・参加任意・参加費3,300円

2

日目 2月23日(日) 受付: 9:15~ (各分科会会場)

分科会B 9:30 12:30	B1	ハイブリッド	次世代・後輩に伝えたいことはなんですか? コーディネーション力を持続可能なチカラにするために
	B2	ハイブリッド	「ボランティア」と呼ばない制度設計にしたその心は?! 美術館、博物館等におけるボランティアマネジメント最前線
	B3	ハイブリッド	災害から考える連携と協働 ボランティアの主体性・創造性を生かすコーディネーションを進めるために
	B4	ハイブリッド	“外国人”であり“女性”である人が、“日本社会”の中で生きるということ 複合的構造において何が起きているか、その困りごとの背景を知る
	B5	ハイブリッド	若者×地域 “ガクチカ”はボランティアの入口になるのか!? ボラ勝! 就勝? 地域勝!! ~「その人らしさ」と「役割」を見つけるためのコーディネーションのあり方を考えよう~
	B6	会場のみ	社会福祉施設と地域の“出会い”と“関わり合い”を語ろう 施設と地域が新たな関係を紡いでいくために
	B7	会場のみ	多様な住民の参加を促進する「地域自治組織」の事務局に必要なコーディネート力とは? コーディネーター役としての事務局力とは何かを探る
	B8	会場のみ	ボードゲームでハツとする「まちのチカラ」の頼り方 頼り上手、頼られ上手の秘訣とは
13:30 ~15:30	クロージングセッション		明日からのコーディネーションのための振り返りと分かち合い

OP

ハイブリッド / 会場 または オンライン

オープニングセッション [100分]

2月22日(土)10:30~12:30

阪神・淡路大震災から30年 ~市民が主体の社会づくりに向けた私たちの課題~

1995年の阪神・淡路大震災から30年。当時、全国から多くのボランティアが駆けつけ、「ボランティア元年」とも呼ばれました。そして、ボランティアコーディネーションの重要性が初めて認識された災害とも言えます。見えにくいニーズに応えるボランティアプログラムの開発により、市民の熱意と創意工夫が活かされる場面が、数多くあったからです。

この市民による活動が大きなテコとなり、1998年にはNPO法が成立しました。行政が公益活動を管理する時代から、市民が法人という器を使って自由に公益活動を展開できる時代が始まったのです。

その後、社会は大きく変化しました。例えば、1986年をピークに実質賃金の低下は続いています。1985年には世帯全体の22%ほどだった単身世帯は2023年には34%となり、家族を超えた人々のつながりが大切になっています。また、1995年には約138万人だった在留外国人の数は2024年6月末には約359万人に達し、多文化共生は喫緊の課題です。文化的背景の異なる人々とともに暮らすなかで、違いを力にする社会づくりが求められているのです。

さて、市民の社会参加に目を向けると、NPO法人のボランティア参加率は低水準が続く、2008年の制度改正で生まれた一般社団法人には市民参加の要件はありません。さらに社協ボランティアセンターの減少や体制の弱体化も報告されています。災害ボランティア活動は広く普及しましたが、近年、災害ボランティアセンターの運営が窮屈になったという声も聞こえてきます。暮らしのなかで生じる困りごとにはサービスを「お客様」として消費して対処する意識が強くなり、自らも主体となって自治的に社会課題と向き合い、解決していく場やモチベーションが弱まっていないかという指摘もあります。

そこで、オープニングセッションでは、JVCC2025を始めるにあたり、「参加の力」を活かすコーディネーションに取り組む私たちが検討すべき課題を出し合い、読み解き、分科会での議論を進める起点としたいと思います。

登壇者



吉富 志津代さん（武庫川女子大学国際センター長 / 心理・社会福祉学部教授）

南米の領事館秘書を経て、1995年の阪神・淡路大震災後は、外国人救援ネットやコミュニティ放送局FMわいわいの設立に参加し、多言語環境の促進、外国ルーツの子どもの教育、外国人自助組織の自立などの活動に従事。大阪大学大学院、名古屋外国語大学などの勤務を経て現職。その他、NPO法人多言語センターFACIL特別顧問、NPO法人たかとりコミュニティセンター常務理事など。



石原 凌河さん（龍谷大学ボランティア・NPO活動センター長 / 政策学部准教授）

1987年京都府宇治市生まれ。阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター研究員等を経て2016年4月より現職。専門分野は地域レジリエンス（都市防災・防災教育・災害復興）と交通政策。様々な地域において地区防災計画の策定や避難所運営訓練などのサポートを行うなど、地域に密着した防災活動を多数展開している。能登半島地震では発災直後から学生とともに被災地を訪問し、避難所や仮設住宅のボランティア活動等に積極的に取り組んでいる。



柏木 登起さん（NPO法人シミズシーズ 代表理事）

1980年兵庫県明石生まれ。民間企業の営業職を経て、2006年からNPOの世界に。2008年にNPO法人シミズシーズへ移り、2015年から代表理事に就任。主体的に活動する「市民」が活躍する市民社会の実現を目指し、コミュニティ・プランナーとして活動する。2012年からは（一財）明石コミュニティ創造協会事務局長を兼務。地域自治組織の支援や生涯学習・男女共同参画の推進等にも関わる。2023年には一般社団法人ひょうご縮充デザインLab設立。

コーディネーター



鹿住 貴之さん（認定NPO法人JUON(樹恩)NETWORK 理事・事務局長）

1972年生まれ。1998年大学生協の呼びかけで設立された都市と農山漁村を結ぶJUON NETWORK(樹恩ネットワーク)に事務局スタッフとして参画。1999年3月より事務局長。その他、NPO法人森づくりフォーラム 常務理事、認定NPO法人エンパワメントかながわ理事、認定NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会 運営委員、杉並ボランティアセンター運営委員等様々な市民活動に携わっている。著書に『割り箸が地域と地球を救う』(創森社・共著)等。

CL

ハイブリッド / 会場 または オンライン

クロージングセッション

2月23日(日)13:30~15:30

明日からのコーディネーションのための振り返りと分かち合い

「多様な主体が生み出す“協奏”の力 ~京から紡ぐ未来のコーディネーション」を全体テーマとして掲げたJVCC2025最後のプログラム。全国各地からあつまった仲間と新たな学びや気づき、感じたことを話し、分かち合いましょう。また、今後のコーディネーションにつなげていくためにお互いの成果を確認し合います。

A1

ハイブリッド / 定員：会場30名 オンライン10名

×(かける)の力が生まれる「場」をつくる

多様な主体が集まり繋がるプログラムとコーディネーションについて考える

新規の参加者を開拓したい、異なる分野の方とコラボしたい。長くイベントを企画していると、誰しも一度はこんな思いが頭をよぎったことがあるのではないのでしょうか。

これまで関わりがなかった人や組織と連携することは、マンネリ化した企画や参加者の固定化を防ぐのに有効だと分かっていても、簡単にアイデアが浮かぶものでもありません。

そこで、この分科会では、地域、企業、学生、道行く人など様々な主体が出会い、繋がり「×(かける)の力」を活かした展開をされている実践者から話を聞き、プログラム企画とコーディネーションについて考えます。

参加対象

自組織の活動の展開に悩んでいる方 / 他分野の方との連携に関心がある方
今までに無い変わった連携を試みたい方

事例発表者 白井 恭子さん (認定NPO法人まちづくりスポット大津 コーディネーター)

木村 幸嗣さん (高槻市社会福祉協議会 地域共生推進課 副主幹

/ 高槻市ボランティア・市民活動センター 所長)

橋本 千恵さん (WOW! 代表 / モバイル屋台つくり・たのしもう 発起人)

● 担当 東直美(地方危機管理研究所)/田中秀幸(守山市(元・市民協働課))/筒井のリ子(龍谷大学)

A2

ハイブリッド / 定員：会場20名 オンライン10名

ボランティアのお客様化？！

ボランティアの主体性を引き出すコーディネーションを考える

市民活動では担い手の高齢化が進んでおり、活動を支える担い手不足が深刻な問題となっています。一方で、お客様気分に参加できる、健康講座や趣味さがしの教室等の需要が高まっていますが、市民活動の新たな人材の発掘にはつながっていないことが多いのではないのでしょうか？

そこで、本分科会では、新たな人材を巻き込んでいる実践事例をもとに、主体性を引き出すコーディネーションについて、大事な視点や関わり方の工夫などを参加者の皆さんと共に考えていきます。

参加対象

地域や組織で活動するコーディネーターの方 / テーマに関心のある方

事例発表者・コーディネーター 鹿住 貴之さん (認定NPO法人JUON(樹恩)NETWORK 理事・事務局長)

事例発表者 柴田 一郎さん (みんなの広場 敦賀屋 代表)

馬谷 麻理さん (大阪いずみ市民生活協同組合 まちのリビング すきいま コーディネーター)

● 担当 國實紗登美(龍谷大学ボランティア・NPO活動センター)/濱道俊成(枚方市社会福祉協議会)/広中歩(京エコロジーセンター)/藪内拓樹(津市社会福祉協議会)

A3

ハイブリッド / 定員：会場30名 オンライン20名

協同組合と連携した地域づくりのコーディネーションを学ぼう

2025国際協同組合年をきっかけに、輪をひろげよう

協同組合(生協、JA、漁協、森林組合、労働者協同組合など)は、経済的な活動だけでなく、助け合い活動や、福祉、環境、平和などの市民活動でも大きな力を発揮しています。最近では、単独の活動だけでなく、市民や様々な組織とも連携して活動を行っています。

そこで、この分科会では、協同組合も参加する地域プラットフォームの連携事例から地域づくりとそこで発揮されるコーディネーションについて考えます。なお、2025年は国連が定めた二度目の国際協同組合年(IYC)であり、様々な市民の組織と、協同組合との協働が生まれるきっかけとなることを期待する企画です。

参加対象

地域のプラットフォームに関心がある方 / 多様な協同組合と連携した活動に興味がある方
組織と人・組織と組織のコーディネーションに興味がある方 / 市民や市民組織と連携して考えている協同組合の方

事例発表者 三宅 正記さん (一般社団法人かわかみらいふ 事務局長)

松岡 賢司さん (一般社団法人コープおおさか子ども食堂フードバンク 設立準備事務局)

ファシリテーター 永井 美佳さん (社会福祉法人大阪ボランティア協会 常務理事・事務局長)

コメンテーター 中村 夏美さん (大阪府生活協同組合連合会 専務理事)

● 担当 鹿住貴之(JUON(樹恩)NETWORK)/文珠正也(ワーカースコープ・センター事業団関西事業本部)/青木覚(日本協同組合連携機構)

A4

ハイブリッド / 定員：会場20名 オンライン10名

外国人住民との「アレ」を「A.R.E」に変えるコーディネーション

社協と国流の連携で、外国人も支援者になる実践事例

地域で増加する外国人に対し、日本人住民は、漠然とした不安や壁を感じ、「外国人ってアレですね」と表現することがあります。そのような中、滋賀県長浜市では、民生委員と社会福祉協議会、国際交流協会、外国人住民が連携して地域の課題に取り組んでいます。

この分科会では、日本人も外国人も暮らしやすい地域共生社会の進展を目指し、その関係者から連携のきっかけ、苦労や工夫、取組から起こった地域社会の変化などを伺い、各参加者の「アレ」を「A.R.E」に変える機会にしたいと考えています。
『A 暗鬼の心を和らげ R 連携して E 縁づくり』

参加対象

社会福祉協議会や国際交流協会・民生委員等、外国人と関わる地域課題に関心がある方

コメンテーター 栗木 梨衣さん（認定NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会 代表理事）

事例発表者 長谷川 幸子さん（NPO法人長浜市民国際交流協会）

藤田 みどりさん（長浜市社会福祉協議会 地域福祉課 担当リーダー）

氏家 春美さん（長浜市在住 日系ペルー人）

堀 直美さん（長浜市神照地区民生委員児童委員協議会）

● 担当 小柏博英(福井市社会福祉協議会)/矢富明徳(佐賀県国際交流協会)

A5

ハイブリッド / 定員：会場30名 オンライン12名

待ったなし！ボランティアの現場にこそ必要な「合理的配慮」と「インクルーシブ」の視点

あらゆる人の参加を実現する「インクルーシブボランティア」のコーディネーション

障害者差別解消法の改正により、2024年4月から、ボランティア団体等でも、本人からの申し出があった場合、「合理的配慮の提供」が義務化されました。この分科会では、地域共生社会の実現に必要な不可欠な、障害がある人、コミュニケーションに難しさがある人や生きづらさを抱える人などが、その人の特性やできることを生かせる「インクルーシブなボランティア活動」の環境づくりについて考えます。現場の工夫を持ち寄り、精神保健や心理の専門家の助言も交えて、相談対応やプログラム開発の視点、プログラムづくりのポイントなどについて共有しましょう。

参加対象

障害がある人やコミュニケーションに難しさがある人などからのボランティア活動相談への対応で悩んでいる方
現場のコミュニケーショントラブルを改善したい方 / ひとりひとりにあったプログラム開発の視点について学びたい方
心理的安全性の高いボランティア活動の環境づくりを目指している方

講演者 岩本 裕子さん（関西国際大学 講師）

コメンテーター 広野 ゆいさん（NPO法人DDAC(発達障害をもつ大人の会) 代表兼カウンセラー(公認心理師)）

事例発表者 横山 泰三さん（NPO法人Wisa シニアディレクター）

楳木 美緒さん（社会福祉法人大阪ボランティア協会 事務局主幹）

● 担当 青山織衣(大阪ボランティア協会)/杉浦健(共働プラットフォーム)
● 企画・運営サポート 谷水美香/南多恵子(大阪ボランティア協会「インクルーシブボランティア」のコーディネーションモデル構築事業企画チーム)

A6

会場のみ / 定員：25名

ネットワーク運営に悩む人 大集合！

ネットワークの価値や可能性を引き出すヒント、一緒に見つけましょう！

ボランティア団体やNPO等がネットワークとして協働することで、互いの活動がより活性化するだけでなく、単独の団体では解決困難な地域課題に取り組むこともできます。一方で、集まる目的やねらいが曖昧なまま活動が形骸化してしまう、ネットワークを最大限に活かすことができていないといった課題も見受けられます。

そこで、本分科会では、事例やグループワークを通じて今抱えるネットワークに関する悩みを互いに共有し、意見を交わし合うことで、「あなたの関わるネットワーク」がもつ価値や可能性を引き出すコーディネーションのヒントをとともに考えます！ネットワークに悩む人、ぜひご参加ください！

参加対象

ネットワークづくりやネットワークの運営に関わっていて、悩みを抱えている方

コメンテーター 赤澤 清孝さん（大谷大学社会学部コミュニティデザイン学科 准教授）

事例発表者 相島 博史さん（生駒市障害福祉ネットワーク(I-Net) 代表）

宅間 和美さん（京都・子どものミライ作りポレポレ 代表）

福富 儀夫さん（八幡市社会福祉協議会 福祉課地域福祉係 主任）

● 担当 磯野奈緒(市民活動サークルえん)/井手俊介(京都市社会福祉協議会)/永松学(京都市社会福祉協議会)/濱道俊成(枚方市社会福祉協議会)

A7

会場のみ / 定員：30名

コーディネーターのお悩み「あるある探検隊」

しなやかなコーディネーターになるために！

日頃のボランティアコーディネーションについて、「共感できる仲間が見つからない…」「ボランティアの自主性・自発性を本当に大切にできているだろうか…」「関係機関に協働を働きかけるのが苦手…」など、悩みやモヤモヤは尽きません。

この分科会では、そのような悩みの「あるある」を再確認し、いきいきと活動する先輩から「あるある」を克服する工夫や視点を学びます。そして、共感を広げる仲間づくりや自主性・主体性の育み方のコツを参加者同士で考え学び合い、これからの勇気と自信につなげます。

参加対象

ボランティアコーディネーター・担当者としてキャリアが浅い方 / コーディネーションを語り合える仲間を求めている方
これから担当になる可能性がある人 など 分野に関わらず、さまざまな中間支援組織や担当の方、大歓迎です！

コメンテーター 村井 琢哉さん (NPO法人山科醍醐こどものひろば 前理事長)

● 担当 石井祐理子(京都光華女子大学)/小柏博英(福井市社会福祉協議会)/田口雄一(ぱれっと)

A8

会場のみ / 定員：30名

若者×地域 ごちゃまぜトーク！

『若者！よそ者？宝物！！～本気で向き合う地域のホンネ・若者のホンネ～』

みなさん、地域で若者が活動する際に『遠慮』していませんか？地域の方も若者も…

お互い遠慮し合っているせいで無難な活動に終わり、双方モヤモヤなんてことも…

この分科会では遠慮を取っ払い、双方のホンネに本気で向き合い、よりよい協働の在り方を考え、コーディネーションに活かすことを目指します。

若者も地域の方々もコーディネーターもみんなごちゃまぜで！遠慮を抜きにしてホンネで語り合い、それぞれが抱えるモヤモヤに本気で向き合っ、誤解を解けるような暖かい時間をみんなで作りましょう！

参加対象

地域と若者をつなぐコーディネーターの方 / 若者の受け入れ方に悩みを持っている活動団体の方
ボランティア活動経験があり活動先との関係にモヤモヤを抱えている若者

ファシリテーター 加藤 圭子さん (高島市)

パネリスト 田村 幸大さん (NPO法人なごみ 事務局長)

横関 つかささん (立命館大学サービスラーニングセンター 元・主事)

早川 歩伽さん (龍谷大学ボランティア・NPO活動センター 元・学生スタッフ)

喜多 誠人さん (京都産業大学ボランティアセンター 学生スタッフ)

山下 陽菜乃さん (龍谷大学ボランティア・NPO活動センター 学生スタッフ)

● 担当 岡秀和(関西学院大学ボランティア活動支援センター)/岡見厚志(World Seed/天神祭ごみゼロ大作戦実行委員会/エコネット近畿)/杉浦健(共働プラットフォーム)
水田真澄(吹田市社会福祉協議会)/山崎智文(京都産業大学ボランティアセンター)/吉田裕真(龍谷大学ボランティア・NPO活動センター)

参

参加者交流会 2/22(土) 17:45~19:45

軽食をつまみながら、夜は楽しい交流タイムを過ごしましょう！

皆さまのご参加をお待ちしております。

- ・ 会場のみでの開催です。オンラインでの交流会は実施いたしません。
- ・ 参加は任意です。
- ・ 別途、会費3,300円がかかります。お申込時に参加費と併せてご入金ください。

詳細は追ってWebページ等でお知らせいたします。



交流コーナー

JVCC2025期間中に会場内に開設！ボランティアコーディネーションに関する図書販売や日本ボランティアコーディネーター協会(JVCA)の活動紹介が行われます。出会いと発見がいっぱいです。

B1

ハイブリッド / 定員：会場20名 オンライン10名

次世代・後輩に伝えたいことはなんですか？

コーディネーション力を持続可能なチカラにするために

共生社会づくりのためには「コーディネート力」が不可欠です。中間支援組織では、その役割発揮が期待され、コーディネーターの増加や強化が求められています。そして、後輩や新しいスタッフにコーディネーションの「肝心なこと」をどのように伝え、育てていくのかは大きな課題となっています。

この分科会では、次世代にどのようにコーディネーション力を伝えていけばよいか、日々悩んでいる職員・スタッフが集まり、「伝えたいことは何なのか、どのように伝えたらいいのか」を、さまざまな葛藤や工夫を出し合いながら整理します。

参加対象

「コーディネーター」の養成や部下の育成に意欲的に関わっている方
「コーディネーター」の養成について、研修内容やOJT等その仕組みについて関心のある方

発題者 土田 恭仁子さん（宇治市社会福祉協議会 事務局次長）

ファシリテーター 石井 祐理子さん（京都光華女子大学 教授）

後藤 麻理子さん（認定NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会 理事・事務局長）

● 担当 石井祐理子/後藤麻理子/土田恭仁子

B2

ハイブリッド / 定員：会場30名 オンライン30名

「ボランティア」と呼ばない制度設計にしたその心は？！

美術館、博物館等におけるボランティアマネジメント最前線

「ボランティア」という言葉は、日本で長らく使われてきていますが、近年では、美術館・博物館のアート活動で「ボランティア」の原則を大切にしつつ、あえて「ボランティア」と呼んでいない(呼ばれたくない)活動もあります。

アート活動の事例をもとに、「ボランティア」「ボランティアコーディネーション」の広がりを考え、「大切にしていること」を発見し、参加する方のコーディネーション力を高める分科会を目指します。

参加対象

“ボランティア” “ボランティアコーディネーション” の広がりを考えたい方
人が集まる仕組み、市民性を育む仕組みを知りたい・考えたい方

事例発表者 熊谷 香寿美さん（東京都美術館 アート・コミュニケーション係長 / 学芸員）

鈴木 隆仁さん（滋賀県立琵琶湖博物館 主任学芸員）

進行 永井 美佳さん（社会福祉法人大阪ボランティア協会 常務理事・事務局長）

● 担当 田口雄一(ばれっと)

B3

ハイブリッド / 定員：会場22名 オンライン8名

災害から考える連携と協働

ボランティアの主体性・創造性を生かすコーディネーションを進めるために

2020年から自治体が災害ボランティアセンター(災ボラ)を社会福祉協議会に委託し、応援職員の人件費(残業代)と旅費を救護費でまかなえるようになり、災ボラの財政基盤が確立されました。しかし委託により災ボラは行政の管理下にあると行政担当者が考えると、災ボラの運営やボランティアの活動が制約されないかなどの懸念も指摘されています。災ボラの運営事例を通じて、行政などの連携・協働のあり方を考えると共に、ボランティアの主体性・創造性が活かされるコーディネーションを実現するために何が必要か、参加者と共に考えます。

参加対象

災害時のボランティアコーディネーションに関心のある方 / 行政との協働のあり方に関心のある方

事例発表者 東 直美さん（京都府災害ボランティアセンター 元・事務局）

高橋 良太さん（全国社会福祉協議会全国ボランティア・市民活動振興センター 所長）

森脇 俊二さん（氷見市社会福祉協議会 事務局次長）

頼政 良太さん（被災地NGO協働センター 代表）

ファシリテーター 早瀬 昇さん（社会福祉法人大阪ボランティア協会 理事長）

● 担当 小柏博英(福井市社会福祉協議会)/土田恭仁子(宇治市社会福祉協議会)/永松学(京都市社会福祉協議会)/文珠正也(ワークスコープ・センター事業団関西事業本部)

B4

ハイブリッド / 定員：会場20名 オンライン10名

“外国人”であり“女性”である人が、 “日本社会”の中で生きるということ

複合的構造において何が起きているか、その困りごとの背景を知る

この分科会では、困っているが、困っていることを伝えることができない人たちの困りごとにアプローチする方法を探ります。特に、自国と日本での性別役割の違い、公的サービスを利用するという発想や習慣の有無、日本語で自分の状況を伝えることができない等の複合的な構造的困難に置かれる外国ルーツの女性の状況にフォーカスします。そして、そうした状況で日本語を習得し、社会参画を果たした方々の経験と、それを促したアプローチ、そのプロセスで発揮されたコーディネーションのはたらきを考えます。

参加対象 社会福祉協議会・国際交流協会・行政・NPOの職員、ボランティア、教員等でトピックに関心がある方

事例発表者 エニ・レスタリさん（アンニサ・シャリハー：インドネシア人女性による情報交換や交流を行うグループ）

児嶋 きよみさん（オフィス・コン・ジュント 代表）

新居 みどりさん（NPO法人国際活動市民中心 コーディネーター）

ベティーナ・ギルデンハルトさん（同志社大学グローバル・コミュニケーション学部 准教授）

ファシリテーター・コメンテーター 栗木 梨衣さん（認定NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会 代表理事）

● 担当 古泉志保(佐賀県庁地域おこし協力隊/地球市民の会)/矢富明德(佐賀県国際交流協会)/山崎智文(京都産業大学ボランティアセンター)

B5

ハイブリッド / 定員：会場20名 オンライン10名

若者×地域 “ガクチカ”はボランティアの入口になるのか！？

ボラ勝！就勝？地域勝！！

～「その人らしさ」と「役割」を見つけるためのコーディネーションのあり方を考えよう～

近ごろ就活戦線で取り沙汰される「ガクチカ(学生時代に力を入れたこと)」。そのネタ作りのためにボランティアに取り組む学生が一定数います。そんな学生を受け入れる地域では、多様化する学生の動機をくみ取ることにより四苦八苦。でも実は、ガクチカもボランティアも「その人らしさ」を大切にするという点では共通項。「きっかけはガクチカでもええやん」と肯定的に捉え、学生と地域がWin-Winになるためには何が必要か、両者の「役割」と「思い」を可視化するコーディネーションについて考えてみましょう。

参加対象 地域と若者をつなぐコーディネーター / 若者の受け入れ方に悩みを持っている活動団体スタッフ
ボランティア活動経験があり活動先との関係にモヤモヤを抱えている若者

ファシリテーター 杉浦 健さん（共働プラットフォーム 代表）

事例発表者 國府 美紀さん（京都府文化生活総務課 協働コーディネーター）

田崎 文吾さん（CoCo.しらかわ 代表）

吉満 優樹さん（NPO法人Metus 理事長）

高砂 元希さん（関西学院大学学生団体 結(MusuVi) 代表）

コメンテーター 吉田 裕貴さん（龍谷大学ボランティア・NPO活動センター ボランティアコーディネーター）

● 担当 岡秀和(関西学院大学ボランティア活動支援センター)/岡見厚志(World Seed/天神祭ごみゼロ大作戦実行委員会/エコネット近畿)/加藤圭子(高島市水田真澄(吹田市社会福祉協議会)/山崎智文(京都産業大学ボランティアセンター)/山下陽菜乃(龍谷大学ボランティア・NPO活動センター)

B6

会場のみ / 定員：30名

社会福祉施設と地域の“出会い”と“関わり合い”を語ろう

施設と地域が新たな関係を紡いでいくために

少子・高齢・人口減少社会の進行にコロナ禍も加わって、地域における住民同士の関係性の希薄化や、世代を超えてつながる機会が少なくなってきています。社会福祉施設は、このような地域の状況を、“地域”の問題としてではなく、“自ら”の問題として自覚し、主体的に行動していくことが必要ではないでしょうか。この分科会では、社会福祉施設における実践をもとに、社会福祉施設と地域が“これからの”地域づくりに向かって協働するための視座と実践展開に必要なマネジメントやコーディネーションについて考えます。

参加対象 社会福祉施設職員 / 社会福祉協議会職員 / NPOや中間支援組織の関係者等
社会福祉施設と地域との関係のあり方や関係づくりについて関心がある方

事例発表者 廣田 岳尚さん（社会福祉法人慈恵会ゆいの里(滋賀県守山市) 理事長）

奥村 昭さん（社会福祉法人六心会(滋賀県東近江市) 法人本部地域支援担当）

コーディネーター 新崎 国広さん（ふくしと教育の実践研究所SOLA 主宰）

● 担当 國寶紗登美(龍谷大学ボランティア・NPO活動センター)/水田真澄(吹田市社会福祉協議会)

会場のみ / 定員：40名

B7

多様な住民の参加を促進する「地域自治組織」の事務局に必要なコーディネータースキルとは？

コーディネーター役としての事務局力とは何かを探る

近年、小学校区規模での地域自治組織「まちづくり協議会」が増え、多様な住民が参加する地域づくりが進んでいます。その中で、住民参加を促すために事務局のコーディネータースキルが重要とされ、事務局が地域活動の推進役を担うことが求められています。しかし、事務局が単なる事務処理に留まる場合もあり、個人の能力に依存することも少なくありません。本分科会では、事務局に必要な具体的なコーディネータースキルについて、実践者を講師に招き、その役割やスキルについて明らかにしていきます。

参加対象

まちづくり協議会（地域自治組織/地域運営組織）等の役員・事務局の方
地域自治組織における事務局機能に興味のある方 / その他、地縁型の活動に関心のある方

講師・コメンテーター 奥河 洋介さん（HITOTOWA INC. 執行役員）

事例発表者 中村 広美さん（NPO法人わいわいみ・な・み（豊岡市竹野南地区コミュニティセンター）マネージャー）

ファシリテーター・進行 柏木 登起さん（NPO法人シミズシーズ 代表理事）

馬袋 真紀さん（朝来市企画総務部総合政策課 副課長）

● 担当 柏木登起/馬袋真紀

会場のみ / 定員：30名

B8

ボードゲームでハッとする「まちのチカラ」の頼り方

頼り上手、頼られ上手の秘訣とは

社会福祉法の改正により、重層的支援体制整備事業が創設され、福祉専門職同士の連携による課題解決が進みました。一方で、インフォーマルな社会資源である「まちのチカラ」（近所のおばちゃんや自治会のおっちゃんなど）と福祉課題との接点が少なくなり、行政や社会福祉協議会が掲げている「住民主体」というビジョンとの乖離が見受けられます。

本分科会では、オリジナルのボードゲームを通して、私たちコーディネーターが「まちのチカラ」を頼りにする視点や、「まちのチカラ」に働きかけていく手法について改めて考えます。

参加対象

まちづくりに関わるコーディネーター / ボランティアセンターのコーディネーター
コミュニティソーシャルワーカーなどの福祉専門職 / 社会福祉協議会のコミュニティワーカーなど

コメンテーター 木村 友香理さん（NPO法人コミュニティ・スペースsacula 代表理事）

事例発表者 田尾 純子さん（京都市まちづくりアドバイザー）

● 担当 赤澤清孝(大谷大学)/小笹優佳(奈良市社会福祉協議会)/濱道俊成(枚方市社会福祉協議会)/藪内拓樹(大津市社会福祉協議会)

実行委員

青山織衣(大阪ボランティア協会) / 赤澤清孝(大谷大学) / 東直美(地方危機管理研究所) / 石井祐理子(京都光華女子大学)
磯野奈緒(市民活動サークルえん) / 井手俊介(京都市社会福祉協議会) / 岡秀和(関西学院大学ボランティア活動支援センターヒューマン・サービス支援室)
岡厚厚志(World Seed/天神祭ごみゼロ大作戦実行委員会/エコネット近畿) / 小柏博英(福井市社会福祉協議会) / 奥村昭(六心会)
小笹優佳(奈良市社会福祉協議会) / 柏木登起(シミズシーズ/明石コミュニティ創造協会) / 鹿住貴之(JUON(樹恩)NETWORK)
加藤圭子(高島市(元・市民協働課)) / 北尾尚子(京都府社会福祉協議会) / 國實紗登美(龍谷大学ボランティア・NPO活動センター)
栗田佳典(関西NGO協議会) / 古泉志保(佐賀県庁地域おこし協力隊/地球市民の会) / 杉浦健(共働プラットホーム) / 田口雄一(ぱれっと)
田中秀幸(守山市(元・市民協働課)) / 土田恭仁子(宇治市社会福祉協議会) / 筒井のり子(龍谷大学) / 中村夏美(大阪府生活協同組合連合会)
永井美佳(大阪ボランティア協会) / 永松学(京都市社会福祉協議会) / 馬袋真紀(朝来市役所) / 濱道俊成(枚方市社会福祉協議会)
早瀬昇(大阪ボランティア協会) / 広中歩(京都市環境保全活動推進協会(京エコロジーセンター)) / 水田真澄(吹田市社会福祉協議会)
文珠正也(ワーカーズコープ・センター事業団関西事業本部) / 矢富明徳(佐賀県国際交流協会) / 藪内拓樹(大津市社会福祉協議会)
山崎智文(京都産業大学ボランティアセンター) / 山下陽菜乃(龍谷大学ボランティア・NPO活動センター)
吉田裕貴(龍谷大学ボランティア・NPO活動センター) / 頼政良太(被災地NGO協働センター/関西学院大学)
事務局 日本ボランティアコーディネーター協会：後藤麻理子/島山拓也 / 神保彩乃

後援

社会福祉法人全国社会福祉協議会 / 社会福祉法人中央共同募金会
特定非営利活動法人日本NPOセンター / 公益財団法人日本YMCA同盟
一般財団法人児童健全育成推進財団 / 一般財団法人自治体国際化協会(CLAIR)
一般社団法人多文化社会専門職機構(TaSSK) / 特定非営利活動法人国際協力NGOセンター
特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会 / 特定非営利活動法人日本病院ボランティア協会
ESD活動支援センター / 近畿地方ESD活動支援センター / 一般社団法人環境パートナーシップ会議
日本生活協同組合連合会 / 社会福祉法人大阪ボランティア協会
特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)
社会福祉法人京都府社会福祉協議会 / 社会福祉法人京都市社会福祉協議会
特定非営利活動法人きょうとNPOセンター / 一般社団法人京都ボランティア協会
関西地区大学ボランティアセンター連絡協議会

IYC2025全国実行委員会後援事業

協賛

サントリーホールディングス株式会社 / 真如苑



認定特定非営利活動法人

日本ボランティアコーディネーター協会

Japan Volunteer COORDINATORS Association

参加の力を信じよう！～市民が主役の豊かで創造的な社会をつくる

市民が主体的に問題解決に取り組む社会を実現するために、一人ひとりの社会参加意識を高め、積極的に行動することを応援する専門スタッフとして「ボランティアコーディネーター」の存在はきわめて重要です。しかし、十分に社会的認知を得ていないことから、多様な分野で活動するボランティアコーディネーターの専門性の向上と社会的認知を進め、専門職としての確立を図ることを目的に、2001年1月に設立(同年8月にNPO法人化)いたしました。

JVCAの事業・活動の5つの柱

- 1 ボランティアの魅力と可能性を伝える
- 2 ボランティアコーディネーションの機能を普及させる
- 3 ボランティアコーディネーターのネットワークの確立
- 4 ボランティアコーディネーターの専門性の向上
- 5 ボランティアコーディネーターの社会的認知の促進

取り組んでいる事業

1 情報の収集と提供活動

- ① ニュースレターの発行
- ② メールマガジンの発信
- ③ ブックレット・書籍の発行
- ④ ホームページ・facebookの運営
- ⑤ 文献・データの情報収集



2 全国研究集会の開催

- ① ボランティアコーディネーターたちが一堂に会する <市民の参加と協働を進めるコーディネーション研究集会(JVCC)>の開催



3 検定システムの実施

- ① ボランティアコーディネーション力1・2・3級検定試験・直前研修の実施
- ② 1・2級合格者のつどい
- ③ 1・2級合格者対象研究会

4 研修・セミナーの開催

- ① ボランティアコーディネーター初任者向け研修の開催
- ② ボランティアコーディネーター実務者向け基礎・応用研修の開催
- ③ 研修講師の派遣

5 調査・研究活動

- ① JVCA会員・検定合格者のニーズ調査の実施
- ② グッドプラクティス事例の収集および認定
- ③ ボランティアコーディネーションに関する実務研修体系についての研究

6 ネットワークの推進

- ① 会員メーリングリストの運営
- ② CoCoサロンの開催支援
- ③ ボランティアコーディネーター基本指針の配布・普及
- ④ 国内外の関係団体との連携、協働

事務局 認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2-13 末よしビル別館 30D

TEL03-5225-1545 FAX03-5225-1563

E-mail:jvca@jvca2001.org URL:https://www.jvca2001.org /